

*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 38 No. 4
August 2013**

毒理学ニュース

日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

第16回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	37
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	39
認定試験受験資格のための評点表	41
第41回日本毒性学会学術年会のご案内(第1報)	43
2014年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	44
2014年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	44
第40回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	45
第52回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①	46
第52回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②	47

その他のお知らせ

知の市場公開講座	48
Practical Application of Toxicology in Drug Development	48
フォーラム2013: 衛生薬学・環境トキシコロジー	49
第6回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム	49
日本環境変異原学会第42回大会(岡山)	50

求人広告

MSD株式会社	51
中外製薬株式会社	52

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

入会案内/変更手続き

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

第16回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

認定試験小委員会委員長

広瀬 明彦

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたはホームページに掲載の「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規定に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。

試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日時

2013年10月6日(日) 9:15～16:30

2. 会場

昭和大学 16号館 2階講義室

※昨年までと校舎が異なります

(東京都品川区旗の台1-5-8)

*東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩7分

3. 出願期間

2013年7月10日(水)～8月23日(金)(必着)

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真 2枚(縦3.5cm×横3cm)

(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

・会員歴：本年度は原則2010年以前に入会された方

(途中退会歴の取り扱いは問い合わせ先まで)

・研究歴

詳細は「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの(書留、宅配等)でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

*領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. トキシコロジスト認定試験の参考図書に関する留意点

日本毒性学会教育委員会編集の「トキシコロジー」(朝倉書店)は2009年に改訂されておりますので、ご留意下さい。第1版と第2版については正誤表が学会ホームページに掲載されておりますので、確認をお願いします。

7. 出願書類送付先・問い合わせ先

日本毒性学会 教育委員会

認定試験小委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35信濃町煉瓦館

(一財)国際医学情報センター内

TEL: 03-5361-7075 / FAX: 03-5361-7091

e-mail: educ-group@imic.or.jp

第16回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真添付欄

受験番号

氏名

(氏名をご記入ください)

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな

氏 名： _____

会員番号： _____

生年月日：西暦 年 月 日

所属機関： _____

職 名： _____

日本毒性学会会員歴：西暦 _____ 年入会（継続 _____ 年）

学 歴：

西暦 _____ 年 _____ 高等学校 _____ 科卒業

西暦 _____ 年 _____ 大学 _____ 学部 _____ 学科卒業

西暦 _____ 年 _____ 大学院 _____ 研究科 _____ 課程修了

職 歴／毒性研究・研究歴（種類，期間）：

受験票送付先：〒

住 所

電話：

FAX：

E-mail：

（お持ちの方は必ずご記入下さい）

写真貼付欄

切
り
取
り
線

認定試験受験資格のための評点表

「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」の付表（脚注に注意）を参考にして自己採点の上、下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお、下表中の論文についてはそのコピーを、学会等参加については参加証のコピーを、学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを、また、講習会については参加証のコピーを、それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏名：

所属機関：

種別	評点項目	評点
論文	毒性学関連論文 ¹⁾	
学会活動	JSOT 学会	発表
		参加
	JSOT 認定学会 ²⁾	発表
		参加
JSOT 認定講習会 ³⁾		
JSOT 主催講習会	基礎教育講習会	1998 年以降
		1997 年以前
	生涯教育講習会	
合計		

1) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

2) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会

3) 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等

切り取り線

第41回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

1. 会期

平成26年（2014年）7月2日（水）～4日（金）

2. 会場

神戸コンベンションセンター

・神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1

TEL：078-302-5200

・神戸国際展示場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-11-1

TEL：078-302-1020

<http://kobe-cc.jp/index.html>

3. テーマ

「基礎研究から応用研究へのトランスレーション」

4. 年会長

中村 和市（塩野義製薬株式会社）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

青木 豊彦（エーザイ株式会社）

石塚真由美（北海道大学）

上野 光一（千葉大学）

漆谷 徹郎（同志社女子大学）

鍛冶 利幸（東京理科大学）

菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）

熊谷 嘉人（筑波大学）

篠田 和俊（(独)医薬品医療機器総合機構）

鈴木 勉（星薬科大学）

菅井象一郎（日本たばこ産業株式会社）

高崎 渉（第一三共株式会社）

遠山 千春（東京大学）

中西 剛（岐阜薬科大学）

永沼 章（東北大学）

西川 秋佳（国立医薬品食品衛生研究所）

野村 護（株式会社イナリサーチ）

姫野誠一郎（徳島文理大学）

福井 英夫（武田薬品工業株式会社）

堀井 郁夫（ファイザー，昭和大学）

横井 毅（名古屋大学）

吉田 武美（(公)薬剤師認定制度認証機構）

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスターでの発表）を2013年12月下旬から受け付ける予定です。

発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。

日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.gr.jp/>

7. 優秀研究発表賞

応募者にはポスター発表および口頭発表をお願いします。応募条件につきましては追ってご案内します。

8. 特別企画

特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，市民公開セミナーを企画予定です。

9. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー，広告掲載，展示出展を募集します。詳細については追ってご案内します。

10. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ：www.jsot2014.com/

11. 年会事務局

〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目

北海道大学 大学院獣医学研究科

環境獣医科学講座 毒性学教室

事務局長：石塚真由美 教授

TEL：011-706-6949 FAX：011-706-5105

E-mail：secretariat@jsot2014.com

2014 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2014 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2014 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.gr.jp/activity/award_society.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsot@imic.or.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2013 年 12 月 31 日（火）

2014 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に 3 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 40 歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員 1 名。

表彰：授賞者数は毎年 3 名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2014 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2014 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.gr.jp/activity/award_encourage.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000 字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去 3 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsot@imic.or.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2013 年 12 月 31 日（火）

第 40 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 40 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号

④第 40 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館

（一財）国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 FAX：03-5361-7091

E-mail：jsot@imic.or.jp

第52回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① — 教育コースへの参加 —

アステラス製薬株式会社 安全性研究所 大村 功



教育コース会場入口

日本毒性学会教育委員会が企画する米国毒性学会 (SOT) 教育コース派遣者としての機会に恵まれ、テキサス州サンアントニオの Henry B. Gonzalez Convention Center で開催された今年の SOT 学術年会 (2013 年 3 月 11 日～14 日: 年会, 教育コース: 10 日) に参加させていただいた。参加した教育コースは「Toxic Effects of Metals」及び「T4: Tools and Technologies in Translational Toxicology」であった。医薬品開発における毒性メカニズムの解析は業務として取り組んでいるが、金属毒性については教科書レベルの知識しか持ち合わせておらず、毒性発現メカニズム解明における Epigenetics やイメージングなど最新の知見を踏まえての説明は大変役に立った。Translational science のセッションは engineered

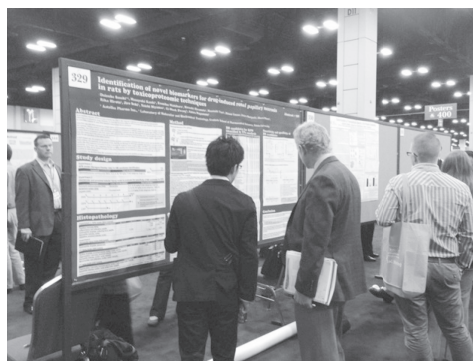
liver model, high throughput screening, imaging, system biology という内容で、近年注目を集める知見をもとにした幅広い講義であった。金属毒性のセッションでは、各講師の講義内容が若干重複していたことが惜しまれたが、網羅的な講義をしようとすれば若干の重複は仕方がないのであろう。講義の詳細は別の機会に講習会という形で報告させていただきたい。

初めての経験であったが、近年普及が著しいスマートフォン及び iPad 向けの SOT アプリが事前に配布されていた。学会のプログラム・要旨集がまとめて入ったものであり、自分がチェックしたい発表・シンポジウムなどを検索し、カレンダー登録までできるもので、大いに活用した。紙の良さもちろん捨てがたいが、IT 技術を駆使し分厚い冊子を持ち歩く必要がない時代がやってきたのかもしれない。

最後に、SOT 参加という貴重な機会を与えていただいた日本毒性学会理事長 菅野純先生、教育委員会委員長 鍛冶利幸先生並びに事務局の皆様へ心より感謝申し上げます。海外の学会に参加できるまたとない機会であり、多くの刺激を受けました。学会員の皆様もぜひ応募されることを望みます。



ToxExpo 及びポスター会場入口
(遙か彼方まで企業ブースとポスターが続く)



ポスターセッションの様子
(活発なディスカッションが行われていた。)

第 52 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告② - サンアントニオでの教育コースに参加して -

東北大学大学院薬学研究科 吉成 浩一

SOT 第 52 回学術年会は、2013 年 3 月 10 日から 14 日まで、テキサス州サンアントニオの Henry B. Gonzalez コンベンションセンターで開催された。私は日本毒性学会の SOT 教育コース派遣事業の一環として「Basic Principles of Human Risk Assessment」及び「The REACH Regulation and Safety Assessment Approaches for Chemicals That Come in Contact with the Skin」の 2 つのコースに参加させて頂いた。

前者はリスクアセスメントの基本を学ぶコースで、参加者も学生やポスドクと思われる比較的若い研究者が多かった。化学物質のヒトでのリスク評価を行うには、「有害性確認」、「用量反応評価」、「暴露評価」が必要であるが、本教育コースではその流れにしたがって講義があった。このコースで印象的だったのは、4 名の講師の事前打ち合わせにより、2-butoxyethanol をモデル化合物として各セッションで具体的な方法論が説明されたことであった。これにより、リスク評価における各ステップの意義が明確になり、非常にわかり易かった。

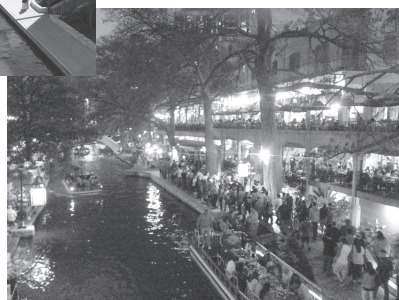
後者のコースでは、REACH における皮膚毒性の評価方法と関連する代替試験法が紹介され、より現実的な内容であった。参加者数も少なく、おそらく企業等で実際に皮膚毒性を担当されている方が多かったのではないと思う。スペースの都合で詳細は割愛するが、REACH の概略説明に続き、実際に用いられる腐食性・刺激性、感作性、透過性に関する様々な代替試験法が具体的に紹介された。

私は所属先で薬学部 4 年生を対象とした「毒性学」の講義を担当しているが、今回、リスクアセスメントに関して体系的な講義を受ける機会を頂き、今後の講義や研究活動に非常に参考となった。皮膚毒性に関しては、まだ講義に活かせていないが、ある研究プロジェクトにおいて REACH を含む欧州における化学物質の規制と代替試験法開発の現状を理解する必要があり、比較的代替試験法の開発が進んでいる皮膚毒性に関する教育コースを受講できたことは、今後の研究活動に非常に有益であった。

学術年会一般発表では、最先端の基礎研究だけでなく、EPA や FDA など米国の規制当局の発表を見て議論することができ、SOT が毒性学の基礎から応用、そしてレギュラトリーサイエンスの情報収集の場として素晴らしい場所であることを実感した。

また、学会以外でもサンアントニオを満喫させて頂いた。サンアントニオは日本人には馴染みのない街と思われるが、アメリカ国内では有数の観光都市であり、昼夜を問わず多くの観光客で賑わっていた。また、サンアントニオは NBA の強豪スパーズの本拠地として有名である。幸い会期中にホームゲームがあり、勝利ゲームを見ることもできた。

最後になりましたが、今回 SOT 教育コースに参加する機会を与えて頂きました日本毒性学会に深く感謝いたします。



その他のお知らせ

知の市場公開講座 2013年度後期の受講者募集のご案内

知の市場は、ボランティアでご協力下さる方々に支えられ、社会に根ざした「知の世界」の構築、及び、人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場の創造を目指しています。

2013年度は、32開講機関と43連携機関の協力のもと、全国38拠点で新規科目16科目を含む82科目を開講しています。

後期は下記のとおり開講いたしますので、ご応募のほどよろしくお願い申し上げます。

項目	内容
開講科目	開講科目ページをご覧ください。 (URL: http://www.chinoichiba.org/pg193.html) 「2013年度後期 開講科目」からシラバスにリンクしています。
開講期間	2013年10月上旬～1月下旬
受講対象	社会人、学生・院生、市民。性別・年齢不問
受講料	無料（一部開講機関を除く）
募集期間	2013年7月1日（月）から開始し、応募の終期は応募状況などを見ながら開講機関が適宜決定しますので各開講機関ホームページをご確認下さい。
受講応募申込	①受講者登録ページ: 知の市場ホームページ内 (URL: http://www.chinoichiba.org/pg219.html) ②受講科目応募申込: 各開講機関ホームページ リーフレットの機関名をクリックすると連絡先が表示されます。

お知り合いの方や広報にご協力して下さる団体に、広くご紹介いただけますようよろしくお願い申し上げます。

Practical Application of Toxicology in Drug Development

American College of Toxicology

Co-Sponsored with Charles River and in association with the British Toxicology Society

Course Description

This course, taught by distinguished experts, is designed to provide a basic training in toxicology. Participants will obtain an overall understanding of the principles of nonclinical safety evaluation with emphasis on the practical application of these principles and interpretation of nonclinical safety data. The course will include discussion of regulatory case studies and a workshop. This toxicology course is intended to benefit individuals

working with small and large molecules from biotechnology and pharmaceutical companies, along with those from Contract Research Organizations and regulatory agencies who are interested in toxicology. Regulatory toxicology in drug development will be emphasized, particularly from the European perspective.

Registration: <http://www.actox.org/meetCourses/patdd.asp>

Course Schedule

◆ Monday, September 9

Basic Principles of Toxicology, *A. Wallace Hayes, Harvard Toxicology Methods/General Tox*, *Adam Woolley, ForthTox Pharmacokinetics/ADME*, *Gerry Kenna, Safety Science Consultant Regulatory Toxicology*, *David Jones, MHRA*

◆ Tuesday, September 10

Organ Systems, *Nigel Toseland, Consultant, University of Surrey Clinical Pathology*, *Malcolm York, GlaxoSmithKline Pathology*, *Peter Greaves, MRC Toxicology Unit*

◆ Wednesday, September 11

Genetic Toxicology, *Veronique Thybaud, Sanofi Carcinogenicity*, *Nigel Roome, Sanofi Reproduction/Developmental Toxicology*, *Gary Chellman, Charles River Immunotoxicology*, *Ian Kimber, University of Manchester*

◆ Thursday, September 12

Pharmacology, *Rob Wallis, Safety Pharmacology Consultant Safety Pharmacology*, *Rob Wallis, Safety Pharmacology Consultant Safety of Biotechnology Products*, *Jennifer Sims, Integrated Biologics Risk Assessment*, *Ernie Harpur, Newcastle University Regulatory Case Studies*, *TBD*

◆ Friday, September 13

Nonclinical Assessment of Drug A: A Special Workshop of Drug Development from Regulatory Perspective, *Kenneth Hastings, Sanofi Timothy McGovern, SciLucent Tracey Zoetis, SciLucent David Jones, MHRA Per Sjoberg, Eureda*

Times

Monday through Thursday 8 am – 5 pm

Friday 8 am – noon

Location

The course is held at the Edinburgh Capital Hotel
187 Clermiston Road
Edinburgh EH 12 6UG
United Kingdom
www.edinburghcapitalhotel.co.uk
+44(0)131.598.9910

For lodging, make arrangements directly with the hotel above, mentioning that you are participating in the course.

**フォーラム 2013：
衛生薬学・環境トキシコロジー**

- 主催** 日本薬学会 環境・衛生部会
協賛 日本毒性学会ほか
期日 平成 25 年 9 月 13 日 (金)・14 日 (土)
会場 九州大学医学部 百年講堂
- 内容**
- ・教育講演
日本人の生活習慣病の時代的変遷：久山町研究
(九大院・医・清原 裕 教授)
 - ・特別講演
1) ビタミン K の生合成と生理機能：新たな展開
(神戸薬大・岡野登志夫 教授)
2) 性差の分泌制御と遺伝的制御
(九大院・医・諸橋憲一郎 教授)
 - ・フォーラム (予定)
 - I 健康維持における脂質の役割
 - II 核内受容体と毒性学研究の最前線
 - III 古くて新しい PM2.5 問題を考える
 - IV 医薬品による環境水汚染：現状、問題点、規制並びに発生源消去法
 - ・一般演題 (口頭発表とポスター)

事前参加登録締切 平成 25 年 7 月 31 日

発表登録締切 平成 25 年 6 月 21 日

事前参加費

会員および協賛学会会員 7,000 円, 非会員 9,000 円,
大学院生 3,000 円, 学部学生 無料

参加・演題申込およびプログラム

詳細については、日本薬学会 環境・衛生部会ホームページ (http://bukai.pharm.or.jp/bukai_kanei/) をご参照下さい。

問合先

〒 812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学大学院 薬学研究院 分子衛生薬学分野内
「フォーラム 2013：衛生薬学・環境トキシコロジー」事務局
E-mail: forum2013eisei@gmail.com
TEL: (092) 642-6585 ~7 FAX: (092) 642-6588

**第 6 回国際ナノテクノロジー労働環境
衛生シンポジウム**

国際会議の名称

和文名：第 6 回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム

英文名：The 6th International Symposium on Nanotechnology, Occupational and Environmental Health; NanOEh6

※ホームページ URL: <http://square.umin.ac.jp/nanoeh6/>

主催団体名

第 6 回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム
日本委員会

委員長 市原 学 (名古屋大学大学院医学系研究科 准教授)
会期 2013 年 (平成 25 年) 10 月 28 日 (月) ~ 10 月 31 日 (木)

開催場所

名古屋国際会議場
〒 456-0036 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 1 号
TEL: 052-683-7711 FAX: 052-683-7777

予定参加人数

400 名 (国内 200 名, 国外 200 名)

参加予定国

米国, EU (英国, ドイツ, フランス他), 中国, 韓国, オーストラリア始め 20 ヶ国

学術事務局

名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学分野
〒 466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65
TEL: 052-744-2123 FAX: 052-744-2126
E-mail: nanoeh6-secretary@umin.org

運営事務局

株式会社コンベンションリンケージ内
〒 460-0008 名古屋市中区栄 3-32-20
朝日生命矢場町ビル
TEL: 052-262-5070 FAX: 052-262-5084

プログラム (予定)

10月28日(月)	口演会場	ポスター・展示会場
午前	教育講演	
午後	教育講演	
10月29日(火)	口演会場	ポスター・展示会場
午前	基調講演	
午後	パラレルセッション	ポスター発表, 企業展示
夕	ポスターレセプション	
10月30日(水)	口演会場	ポスター・展示会場
午前	基調講演	
午後	パラレルセッション	ポスター発表, 企業展示
夕	懇親会	
10月31日(木)	口演会場	ポスター・展示会場
午前	基調講演, パネルディスカッション	
午後	サテライトシンポジウム	

問い合わせ先

日本環境変異原学会第42回大会事務局(就実大学薬学部内)
 須藤鎮世 (Tel & Fax : 086-271-8357, sutou@shujitsu.ac.jp)
 工藤季之 (Tel : 086-271-8428)
 第42回大会 E-mail : jems2013@shujitsu.ac.jp
 第42回大会 URL : <http://www.pac.ne.jp/jems2013/>

日本環境変異原学会第42回大会(岡山)

日本環境変異原学会は人々の生活と環境の安全・安心を確立するため、種々の遺伝毒性物質を検出・評価する手法の開発と普及に努め、医薬品、食品、化粧品、農薬、化学物質、環境の安全を守ることに役立つ研究を推進し、成果はレギュラトリーサイエンスにも反映され、多くの社会貢献を行っております。

開催日 2013年11月29日(金)～30日(土)

会場 岡山コンベンションセンター(岡山駅より2分)

<http://www.mamakari.net>

テーマ 「変異と進化を考える ―我々はどこから来たのか、我々はどこへ行くのか」

シンポジウム1: 同上のテーマに同じ

シンポジウム2: 光遺伝毒性

一般演題: 変異原性・抗変異原性, 遺伝毒性, 革新的遺伝毒性検出手法・技術, 次世代影響, 突然変異の分子生物学, エピジェネティクス, オミックス研究, リスク評価・施策等


参加費

【事前登録】一般会員: 10,000円, 学生会員: 3,000円,
非会員: 12,000円

【当日登録】一般会員: 12,000円, 学生会員: 5,000円,
非会員: 15,000円

主催 日本環境変異原学会第42回大会実行委員会

後援 就実大学

 <p>MSD 株式会社 前臨床薬事 サイエнтиスト / シニアサイエнтиスト 募集要項</p> <p>新薬で、未来をひらく。</p>	
職 種	前臨床薬事 サイエнтиスト / シニアサイエнтиスト
職務内容	<p>新薬開発及び承認申請に必要な各種前臨床安全性試験を対象に、臨床開発のサポート及びCTDを含め当局に提出する資料をグローバルとともに進めていきます。そのためには、各種前臨床の毒性試験及び安全性薬理試験の幅広い理解、知識及び経験が必要になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新薬開発のプロジェクトメンバーとして活動 ・新薬の治験に必要な前臨床安全性の資料作成及び計画 ・前臨床関連の治験相談 ・承認審査に必要な前臨床安全性のCTDを含む申請資料の作成 ・申請後の当局対応 ・米国本社と各前臨床の問題点の話し合い
雇用形態	正社員
勤 務 地	東京本社、または大阪オフィス（応相談）
応募資格 / 必要な経験・能力	<p><必須事項> 研究所で安全性試験の業務経験（約5年以上） （新薬の開発及び申請業務の経験があれば尚可） 獣医あるいは生物系専攻の大学・大学院出身者 TOEIC 730点以上 認定トキシコロジストであれば尚可</p> <p><以下の経験があれば尚可> 各種報告書のレビューや申請資料の作成など専門知識や経験を生かしたデスクワーク 学会あるいは業界での活動経験</p>
<p>ご応募をご希望の方は 職務経歴書（日英）及び 履歴書を添付の上、下記採用窓口まで Email にてご連絡下さい。</p> <p style="text-align: center;">MSD 株式会社 人事採用グループ 03-6272-2696 msd_recruiting_information@merck.com</p>	

MSD について

MSD は、すこやかな世界の実現を目指して努力を続けるグローバルヘルスケアリーダーです。医療用医薬品、ワクチン、バイオ医薬品、コンシューマー製品およびアニマルヘルス製品の提供を通じてお客様と協力し、世界 140 カ国以上で事業を展開して革新的なヘルスケア・ソリューションを提供しています。また、さまざまなプログラムやパートナーシップを通じて、医療へのアクセスを推進する活動に積極的に取り組んでいます。MSD の詳細については、www.msd.co.jp をご参照ください。

中外製薬株式会社 研究員募集	
職 種 名	非臨床薬物動態研究員, 非臨床安全性研究員
職務内容	<p>(1) 非臨床薬物動態研究員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非臨床薬物動態試験の試験責任者としてプロジェクトの推進 ・薬物動態試験の実施および PK/PD 解析 ・生体試料中薬物関連物質およびバイオマーカーの定量 ・IB 及び申請用ドキュメント執筆および機構対応 <p>(2) 非臨床安全性研究員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般毒性, 生殖発生毒性, 遺伝毒性, 安全性薬理, 病理, 免疫毒性, ・IB 及び申請用ドキュメント執筆および機構対応
募集人数	若干名
応募資格	<p>海外関係会社と専門知識について議論できる英語力があること (TOEIC730 点以上)</p> <p>(1) 非臨床薬物動態研究員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創薬開発の非臨床薬物動態研究で 5 年以上の実務経験があること。 ・非臨床 DMPK あるいは Bioanalysis に関するレギュラトリーサイエンスの一般的な知識があること。 ・高分子 DMPK に関する創薬・開発研究の知識や業務経験があれば尚可。 <p>(2) 非臨床安全性研究員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業での非臨床安全性研究での実務経験があること。 ・申請業務や研究成果の外部発表経験があること。 ・認定トキシコロジスト, PhD 等の資格があればなお可。
勤 務 地	富士御殿場研究所もしくは鎌倉事業所
待 遇	当社規定により優遇いたします。
応募方法	<p>応募希望分野を明記の上, 履歴書, 経歴書を下記までご郵送ください。 E-mail での応募も受け付けます。 書類審査の結果, 合格された方に面接日等をご連絡します。 尚, 応募書類の返却は致しませんので予めご了承願います。 ※応募の秘密, 厳守いたします。 ※いただきました情報に関しては, 選考目的以外一切使用いたしません。</p>
連 絡 先	<p>〒 412-8513 静岡県御殿場市駒門 1-135 中外製薬株式会社 研究業務推進部 採用担当 E-mail : rc recruit@chugai-pharm.co.jp</p>

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性とその発現機構, 生体応答, 安全性評価, 分析法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report: 刷り上がり3頁以内。毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群(または蛋白質群)に関するデータ(DNAアレイ分析の結果など)や毒性発現に影響を与える遺伝子(または蛋白質)の同定などが該当する。DNAアレイ分析結果などは1つの物質について1論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は1つの遺伝子について1論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果(ネガティブデータでも可)なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたもので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を一般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けませんが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (5) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4判に上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語

で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。

- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行しない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, Å, µg, mg, g, kg, µl, ml, l, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/l, mg/ml, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C.
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith et al., 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 薬物中毒 C8 薬物依存性 C9 細胞毒性 C10 酸化ストレス C11 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 オミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」（1964年発行、2002年改訂：<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>）の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/genomeshishin/）に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした

論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 投稿原稿の送付

原稿はオンライン投稿システム（<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>）から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

7. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

8. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

9. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^c （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Report ^b	16,000	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：Toxicomics Report。 ^c：図等も含む。

入 会 案 内

1. 「日本毒性学会会則」を熟読の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.gr.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
入会にあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は、評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。評議員については「評議員リスト」(https://toxicol.org/users/councilor_list)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 入会受付後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は1月1日から12月31日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年の機関紙 No.1 からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。
一般会員 7,000円
学生会員 3,000円
*本年度入会希望の方は、12月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「登録情報確認・変更ページへ」から手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「退会申請ページへ」より手続きを行って下さい。

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 21 年 7 月 5 日改正
 平成 15 年 7 月 19 日改正 平成 23 年 1 月 14 日改正
 平成 19 年 1 月 16 日改正 平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は化学物質の毒性試験に関する基準（GLP）の施行に伴う安全性試験の信頼性確保の重要性に鑑みて、わが国の安全性試験の信頼性向上と毒性学の進歩に寄与するため、JSOT 認定トキシコロジストの認定制度を設けて、質の高い専門家を認定する。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会（以下試験委員会という）を設置する。試験委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- (1) JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- (2) 書類審査および認定試験は試験委員会が行い、認定は理事会が行う。
- (3) 書類審査の基準は次の通りとする。
 - (イ) 出願時に3年以上継続してJSOTの会員であること。
 - (ロ) 出願時に6年制大学卒業後5年以上、4年制大学卒業後7年以上、短期大学卒業後10年以上、高等学校卒業後12年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等については事務局に事前に問い合わせること。

- (ハ) 別表の受験資格評点基準に従って総合点が80点以上に達していること。
- (ニ) 上記のうち、基準に満たない要件があるものについても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。
- (4) 認定試験は原則として年1回実施し、筆記試験とする。
- (5) 受験料は3万円とする。
- (6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- (1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は2万円とする。
- (2) JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後5年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 24 年 1 月 1 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学会 JSOT 認定学会 ³⁾ JSOT 認定講習会 ⁴⁾	10 / 回 5 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
JSOT 主催講習会	基礎教育講習会 (1998 年以降) ⁵⁾ 生涯教育講習会	40 / 回 5 / 回	

- 1) 発表におけるかっこ内数字は筆頭者でない共同発表の点数を示す。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛 (後援は除く) 学会
- 4) 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 5) 1997 年以前の参加は 10 / 回

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日制定
 平成 15 年 7 月 19 日改正
 平成 19 年 1 月 16 日改正
 平成 21 年 7 月 5 日改正
 平成 23 年 1 月 14 日改正
 平成 24 年 1 月 1 日改正
 平成 24 年 7 月 5 日改正
 平成 24 年 12 月 12 日改正

- 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
- 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
- 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - 資格更新申請時にも JSOT 会員であること。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間に別に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加してはならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される。（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する。）
 - 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80% 以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては一回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80% 以上に達した場合には合格とする。
- 理事長は資格更新申請を受け、教育委員会委員長を経て認定試験小委員会に審査を委嘱する。
- 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員会委員長を経て理事長に答申する。
- 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
- 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料（当分の間 2 万円）を学会に納入する。
- 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
- 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
- 65 歳*時点で認定トキシコロジストとして有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる**。
- 細則の改定は認定試験小委員会の議を経て、理事会の承認を得る必要がある。

付則：平成 24 年 12 月 12 日改定の本規程は同日から施行する。

- *：更新年の 12 月 31 日に 65 歳である者
- **：本表彰は 66 歳以降における認定資格の更新に関わらず、本条項該当者の申請に基づき行われるが、表彰のための費用は徴収しない。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 参加 / 発表 JSOT 認定学会 ¹⁾ 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 公認講習会 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛 (後援は除く) 学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・生涯教育講習会, 日本学会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

2013年8月1日 印刷

2013年8月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 永沼 章

発行所 日本毒性学会

編集部 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野内
TEL (022) 795-6870 FAX (022) 795-6869
E-mail : jts-ed@jtoxsci.org

学会事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
一般財団法人 国際医学情報センター内
日本毒性学会事務局
TEL (03) 5361-7075 FAX (03) 5361-7091
E-mail : jsot@imic.or.jp
振替 00150-9-426831

ホームページ <http://www.jsot.gr.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161